

科目名	科学と人間生活	教科	理科	単位数	2
教材	改訂 科学と人間生活(第一学習社)	教材費 (予定定価)		604円	

共通必修科目	選択する学年	1
--------	--------	---

学習目標 (どのような力をつけるのか)	自然と人間生活との関わり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について学びます。科学的な見方や考え方を身に付ける。
学習方法 (授業の進め方・学習の仕方)	教科書の内容を理解し、問題演習を繰り返し行い、知識の定着を図ります。疑問に思ったことや興味のある内容は、自ら調べ、理解を深める。
評価方法	定期考査を実施。授業への取り組む姿勢・提出物の状況・小テストの結果・実験に取り組む姿勢・レポートなどから総合的に判断する。

学習計画
(1年間の授業計画)

学習内容	学習活動
1学期 【物質の科学】 ・材料とその利用 ・衣料と食品 2学期 ・衣料と食品 【熱や光の科学】 ・熱の性質とその利用 ・光の性質とその利用 3学期 【地球や宇宙の科学】 ・身近な自然景観と自然災害 ・身近な天体と太陽系における地球	身近な例をもとに、科学技術が社会に与えた影響を理解する。身近な物質の種類、性質、用途について理解する。 小テストやDVD視聴をしてレポートを完成させ、理解を深める。 食品については、実験を通して、理解を深める。 熱とエネルギーの関係、光の性質と利用について理解する。 自然景観の成り立ちを学習し、自然災害に対する防災意識を身に付ける。また、天体と人間生活との関わり等を理解する。

評価の観点

関心・意欲・態度	身近な物事・現象に関心や探求心をもち、意欲的にそれを探究するとともに、科学的に物事を捉える見方、考え方を身に付けている。
思考・判断・表現	身近な物事・現象について、科学の知識が生活の種々の場面に必要である事を見出し、自分の考えを表現することができる。
技能	科学の現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究し、その結果や考察したことを表現することができる。
知識・理解	科学の現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

科目名	物理基礎	教科	理科	単位数	2
教材	ニューサポート 新編 物理基礎		教材費 (予定定価)	588円	

系列選択科目	必修系列	選択できる系列
--------	------	---------

<input type="radio"/> 自由選択科目	選択する学年	2
------------------------------	--------	---

選択の条件	なし
選択のめやす	計算力に自信があり、進路実現のために必要な人や物理現象に興味がある人。3年生で物理を履修しようと考えている人。
学習目標 (どのような力をつけるのか)	身の回りの様々な物理的な事物・現象の背後にある基本法則を知り、物理的に現象を捉える力を身に付ける。
学習方法 (授業の進め方・学習の仕方)	身近な現象から基本法則を考察し、計算問題で演習する。
評価方法	定期考査、授業への取組、提出物の状況、小テストの結果などをもとに評価する。

学習計画
(1年間の授業計画)

学習内容	学習活動
【直線運動の世界】 速さ、速度、等速直線運動、等加速度直線運動、自由落下 【力と運動の法則】 力のつり合い、力の合成と分解、運動の法則 【仕事とエネルギー】 仕事、仕事率、位置エネルギー、力学的エネルギー	全体を通して、基礎的な事物・現象を理解する。 身近な物理現象に興味をもち、科学的に物事を捉えられるように心がける。 問題演習を行い、学習の定着をはかるとともに、実験や課題を通して、理解を深める。 実験を行い、その結果をグラフ等にまとめ、結果から基本法則を考察する。

評価の観点

関心・意欲・態度	物理現象に関心をもち、主体的に学習しようとしている科学的に物事を捉える考え方を身に付けている。
思考・判断・表現	自然現象を客観的に捉え、分析的に考察できる。事実に基づいて科学的に判断し、表現できる。
技能	実験・観察の技能を身に付けている。自己の考えを科学的な用語やグラフを用いて的確に表現できる。
知識・理解	自然の事柄について科学的に理解できている。理解や表現に必要な知識を身に付けている。

科目名	物理	教科	理科	単位数	4
教材	サンダイアル ステップアップノート物理(啓林館)	教材費 (予定定価)	825円		

○	系列選択科目	必修系列	選択できる系列	自然科学と情報
---	--------	------	---------	---------

自由選択科目	選択する学年	3
--------	--------	---

選択の条件	物理基礎を履修した人。
選択のめやす	物理を入試科目として選択しようとする人。
学習目標 (どのような力をつけるのか)	身の回りの様々な物理的な事・現象の背後にある基本法則を知り、物理的に現象を捉える力を身に付けるとともに、物理現象に対する探究心を高める。
学習方法 (授業の進め方・学習の仕方)	身近な現象から基本法則を考察し、問題集やプリントなどの計算問題で演習を繰り返す。
評価方法	評価については各学期における定期考査と日々の取り組み(活動の様子、提出物の状況、授業への取り組み方等)で評価する。

学習計画
(1年間の授業計画)

学習内容	学習活動
○さまざまな運動 平面上の運動・放物運動 力のモーメント 円運動・慣性力・万有引力 ○波 波の表し方・波の伝わり方 音の性質・ドップラー効果 光の伝わり方・光の回折と干渉 ○電気と磁気 電界と電位・電流・電流と磁界 ○原子 素粒子・放射線	全体を通して、基礎的な事・現象を理解し、問題演習を行って学習の定着を図る。 身近な物理現象に興味をもち、科学的に身の回りの事物をとらえることを心がける。 問題集や課題、実験やレポートを通して理解を深める。また、実験結果をグラフ等にまとめ、結果から基本法則を考察する。

評価の観点

関心・意欲・態度	物理や物理現象に関心や探究心をもち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。
思考・判断・表現	物理や物理現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
技能	物理や物理現象に関する実験・観察などを行い、技能を習得するとともに、自己の考えを科学的な用語やグラフ、情報機器を用いて的確に表現でき、科学的に探究する技能を身に付けている。
知識・理解	物理や物理現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。

科目名	化学基礎	教科	理科	単位数	2
教材	ニューサポート 新編 改訂 化学基礎 (東京書籍)			教材費 (予定定価)	520円

系列選択科目	必修系列	選択できる系列
--------	------	---------

<input type="radio"/> 自由選択科目	選択する学年	2
------------------------------	--------	---

選択の条件	なし
選択のめやす	化学に興味関心をもち、学習意欲のある人。3年生で化学を履修しようと考えている人。入試科目に化学基礎が必要な人。
学習目標 (どのような力をつけるのか)	身の回りの化学的な事物・現象について、その基本的な原理・法則・物質の性質などを学び、理解を深める。
学習方法 (授業の進め方・学習の仕方)	いろいろな物質の名前、化学式、反応式、反応に関する計算などを身に付ける。そのためには、日々の学習が必要である。また、化学に興味をもち、実験方法を理解し、実験結果から考察する。
評価方法	定期考査を実施。授業への取り組みの姿勢・提出物の状況・小テストの結果・実験への取り組む姿勢とレポートなどを総合的に判断する。

学習計画
(1年間の授業計画)

学習内容	学習活動
・物質の成分と構成元素	元素についてや物質の三態について学習する。
・原子の構造と元素の周期表	原子について、その構造などを学習する。
・化学結合	イオン、分子、金属の結合について学習する。
・物質と化学反応式	化学反応式を作ったり、化学反応式から反応について考えたりします。また、計算・演習も行う。
・酸と塩基	酸の物質、塩基の物質について学習し、中和反応について、実験を通して学習していきます。計算・演習も行う。

評価の観点

関心・意欲・態度	化学の現象に関心をもち、意欲的にそれを探究しようとする。 科学的に捉える見方・考え方をもっている。
思考・判断・表現	化学の成果が人間生活に果たしている役割を考察できる。 化学の知識が生活の種々の場面に必要である事を見出し、自分の考えを表現することができる。
技能	実験・観察の技能を身に付けている。 科学的に探究し、その結果や考察したことを表現することができる。
知識・理解	化学の現象についての基本的な概念や原理・法則を理解できる。 理解や表現に必要な知識を身に付けている。

科目名	化学	教科	理科	単位数	4
教材	ニューサポート 新編化学(東京書籍)	教材費 (予定定価)	717円		

系列選択科目	必修系列	選択できる系列
--------	------	---------

<input type="radio"/> 自由選択科目	選択する学年	3
------------------------------	--------	---

選択の条件	化学基礎を履修した人。
選択のめやす	化学を入試科目として選択しようとする人。
学習目標 (どのような力をつけるのか)	化学的な事物・現象に関心を持ち、入試に対応出来る力を身に付ける。実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育成する。
学習方法 (授業の進め方・学習の仕方)	教科書の内容を理解し、問題演習を繰り返し行い、知識の定着を図る。疑問に思ったことや興味のある内容は、自ら調べ、理解を深めていく。
評価方法	各学期における定期考査と日々の取り組み(活動の様子、提出物の状況、日頃の授業の取り組み方等)で評価します。

学習計画
(1年間の授業計画)

学習内容	学習活動
【物質の状態】 物質の状態と変化 溶液の性質、固体の構造 【化学反応とエネルギー】 化学反応と熱・光 電池と電気分解 【化学反応の速さと平衡】 化学反応の速さ 化学平衡、電解質水溶液の平衡 【無機物質】 非金属元素、典型金属元素、遷移元素 無機物質と人間生活 【有機化合物】 有機化合物の基礎 脂肪族化合物、芳香族化合物 有機物質と人間生活 【高分子化合物】 天然高分子化合物、合成高分子化合物 高分子化合物と人間生活	物質について、構成粒子・反応・量的関係を学習します。 化学変化をエネルギーの出入りと関連付けて学習します。 酸化還元反応・平衡の基本的な概念や法則を日常生活と関連付けて学習します。 無機物質・有機化合物・高分子化合物の性質やその変化を日常生活と関連付けて学習します。

評価の観点

関心・意欲・態度	化学の現象に関心や探求心を持ち、意欲的にそれを探究するとともに、科学的に物事を捉える見方、考え方を身に付けている。
思考・判断・表現	化学の成果が人間生活に果たしている役割を考察し、化学の知識が生活の種々の場面に必要である事を見出し、自分の考えを表現することができる。
技能	化学の現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究し、その結果や考察したことを表現することができる。
知識・理解	化学の現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

科目名	生物基礎	教科	理科	単位数	2
教材	啓林館 生物基礎 ワーク生物基礎	教材費 (予定定価)	535円		

共通履修科目	選択する学年	2
--------	--------	---

学習目標 (どのような力をつけるのか)	生物の多様性と共通性について、分子レベルから生態系レベルまで学ぶ。そして、ヒトとはどんな生物か、健康に暮らす知識を身につけ、自分自身の理解につなげる。
学習方法 (授業の進め方・学習の仕方)	身の回りで起こる様々な自然現象に興味をもち、その法則性について考えていく。疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。学んだことを正確に記録する方法と態度を身に付けること。出された課題や宿題は確実にすること。
評価方法	定期考査、授業への取り組み、提出物の状況、小テストの結果などをもとに評価する。

学習計画
(1年間の授業計画)

学習内容	学習活動
【生物の特徴】 生物の共通性、生命活動とエネルギー	共通性と多様性、光合成、呼吸、共生説、DNAについて学習する。
【遺伝子】 DNA、タンパク質合成	顕微鏡の基本的な使い方を学習する。
【生物の体内環境の維持】 血液、自律神経による調節、ホルモンによる調節、体内環境を守るしくみ。	ヒトの体や健康に関する内容、肝臓、腎臓などについて学習する。

評価の観点

関心・意欲・態度	身のまわりの生物に関心をもっている。 自然を総合的に捉える見方・考え方をもっている。
思考・判断・表現	自然現象を客観的に捉え、分析的に考察できる。 事実に基づいて科学的に判断できる。
技能	実験・観察の技能を身に付けている。 自己の考えを的確に表現できる。
知識・理解	自然の事柄についての科学的な理解ができる。 理解や表現に必要な知識を身に付けている。

科目名	生物	教科	理科	単位数	4
教材	サンダイアル 生物の基本マスター（啓林館）		教材費 (予定定価)	913円	

<input type="radio"/>	系列選択科目	必修系列	選択できる系列	人間文化と芸術・自然科学と情報
-----------------------	--------	------	---------	-----------------

<input type="checkbox"/>	自由選択科目	選択する学年	3
--------------------------	--------	--------	---

選択の条件	生物基礎を履修した人。
選択のめやす	生物を入試科目として選択しようとする人。
学習目標 (どのような力をつけるのか)	生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理、法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。
学習方法 (授業の進め方・学習の仕方)	日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち、その法則性について考える。疑問に思ったことは自ら積極的に調べていく。
評価方法	定期考査、授業への取組、提出物の状況、小テストの結果などをもとに評価する。

学習計画
(1年間の授業計画)

学習内容	学習活動
【生命現象と物質】 細胞と分子、代謝、遺伝情報の発現 生命現象と物質に関する探究活動、 【生殖と発生】 有性生殖、動物の発生、植物の発生 生殖と発生に関する探究活動 【生物の環境応答】 動物の反応と行動、植物の環境応答 生物の環境応答に関する探求 【生態と環境】 個体群と生物群集、生態系生物と環境に関する探究活動 【生物の進化と系統】 生物の進化の仕組み、生物の系統 生物の進化と系統に関する探究活動	<ul style="list-style-type: none"> ・生物を構成する元素や物質について理解する。 ・代謝とエネルギーの出入りについて科学的に学習する。 ・代謝には同化と異化があることを学習する。 ・減数分裂による遺伝子の分配と受精について学習する。 ・無性生殖と有性生殖の特徴を科学的に学習する。 ・視覚、聴覚が生じる仕組みを学習する。 ・光屈性や花芽形成の仕組みを学習する。 ・生態系の仕組みを理解すると共に、物質の循環やエネルギーの流れを学習する。 ・生物の進化とその仕組みについて学習する。 ・生物の分類法を理解すると共に特徴や形態の違いを学習する。

評価の観点

関心・意欲・態度	生物や生物現象に関心や探究心をもち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。
思考・判断・表現	生物や生物現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
技能	生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
知識・理解	生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。

科目名	身近な科学		教科	理科	単位数	2
教材	自主教材			教材費 (予定定価)	なし	

系列選択科目	必修系列	選択できる系列
--------	------	---------

<input type="radio"/>	自由選択科目	選択する学年	2
-----------------------	--------	--------	---

選択の条件	なし
選択のめやす	理科に興味がある人。
学習目標 (どのような力をつけるのか)	科学現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てる。
学習方法 (授業の進め方・学習の仕方)	日常生活の中で起こる様々な科学的な現象に興味をもち、その法則性について考える。疑問に思ったことは自ら積極的に調べる。
評価方法	授業への取り組み・レポートの内容・提出物の状況など日頃の授業への取組を基に評価する。

学習計画
(1年間の授業計画)

学習内容	学習活動
○タンポポの観察	・校舎内のタンポポの観察を行い、特徴を理解する。
○元素周期表	・原子・分子などの化学の基本知識を確認し、化学反応における物質の変化とその量的関係について理解する。
○身近な科学実験	・実験観察を通して科学の原理を学ぶ。 科学実験、細胞の大きさの測定・メダカの走性・色素の分離・植物細胞と浸透圧、ヒガンバナの観察・アルコールパッチテスト・表面張力等

評価の観点

関心・意欲・態度	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。
思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
技能	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、その過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
知識・理解	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

科目名	物理探究	教科	理科	単位数	2
教材	①2年の物理基礎で使用した問題集 ②自主教材		教材費	①なし ②なし	

系列選択科目	必修系列	選択できる系列
--------	------	---------

○	自由選択科目	選択する学年	3
---	--------	--------	---

選択の条件	なし
選択のめやす	理系の大学・専門学校への進学を考えている人。
学習目標 (どのような力をつけるのか)	基礎問題を中心に取り組み、入試に対応できる基礎力を身に付ける。また、センター試験への対策として入試過去問題にも取り組み、事象を論理的にとらえる力を育む。
学習方法 (授業の進め方・学習の仕方)	身の回りで起こるさまざまな物理現象から基本法則を考えていく。授業で取り組んだ内容は家庭で復習すること。また、教科書等を使って、自分で調べながら問題を解いてみる。
評価方法	以下の各観点における規準をもとに定期考査、課題の提出状況、小テスト、取り組む姿勢などから総合的に判断する。

学習計画
(1年間の授業計画)

学習内容	学習活動
物理基礎の内容 【直線運動の世界】 速さ、速度、等速直線運動、等加速度直線運動、自由落下 【力と運動の法則】 力のつり合い、力の合成と分解、運動の法則 【仕事とエネルギー】 仕事、仕事率、位置エネルギー、力学的エネルギー 【熱】 熱と温度、熱と仕事 【波】 波の伝わり方、音の伝わり方 【電気】 電流と電気抵抗、電力と電力量 【エネルギー】 エネルギーの変換と保存、エネルギーの利用	各範囲に関する基礎問題に取り組みながら、内容の復習を行う。 小テスト、課題により基礎力の定着をはかる。 実践力、あきらめずに挑戦する力を身に付けるため入試過去問題の類題や応用問題にも挑戦する。 実験を行い、その結果をグラフ等にまとめ、結果から基本法則を考察する。

評価の観点

関心・意欲・態度	物理の現象に関心をもち、意欲的にそれを探求するとともに、科学的に物事を捉える見方、考え方を身に付けている。
思考・判断・表現	基礎問題や入試問題の取り組みを通し、物理の現象について科学的な思考力、判断力を身に付け、表現できる。
技能	物理公式を的確に応用することができ、実験・観察の技能を身に付けている。自己の考えを科学的な用語やグラフを用いて的確に表現できる。
知識・理解	物理についての基本的な概念や法則を理解し、知識を身に付けている。

科目名	化学探究		教科	理科	単位数	2
教材	①2年の化学基礎で使用した問題集 ②自主教材			教材費 (予定定価)	なし	

系列選択科目	必修系列	選択できる系列
--------	------	---------

<input type="radio"/> 自由選択科目	選択する学年	3
------------------------------	--------	---

選択の条件	なし(2年次に化学基礎を受講していることが望ましい)
選択のめやす	理系の大学・専門学校への進学を考えている人。
学習目標 (どのような力をつけるのか)	基礎問題を中心に取り組み、入試に対応できる基礎力を身に付ける。また、センター試験への対策として入試過去問題にも取り組み、事象を論理的にとらえる力を育む。
学習方法 (授業の進め方・学習の仕方)	教科書の内容を理解し、グループワークを通じて知識の定着と化学的な思考力を身に付けます。授業で取り組んだ内容は家庭で復習すること。
評価方法	定期考査を実施。授業への取り組みの姿勢・提出物の状況・小テストの結果・実験に取り組む姿勢とレポートなどを総合的に判断する。

学習計画
(1年間の授業計画)

学習内容	学習活動
<1学期> 化学基礎の内容のつづき ・酸と塩基 ・酸化還元反応	酸の物質、塩基の物質について学習し、中和反応について、実験を通して学習していきます。計算も行う。 酸化と還元、また、反応する物質について学習する。
<2学期> ・酸化還元反応 ・化学基礎の復習	・各範囲に関する基礎問題に取り組みながら、内容の復習を行う。 ・小テスト、課題により基礎力の定着をはかる。 ・実践力、あきらめずに挑戦する力を身につけるため入試過去問題の類題や応用問題にも挑戦する。
<3学期> ・化学基礎の復習 ・身近な実験	・身近な実験を通して、科学的な見方、考え方を養う。

評価の観点

関心・意欲・態度	化学の現象に関心や探求心をもち、意欲的にそれを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。
思考・判断・表現	基礎問題や入試問題の取り組みを通し、化学の現象について科学的な思考力、判断力を身に付け、表現できる。
技能	化学の現象を捉えるための観察・実験の技能を身に付け、表現できる。
知識・理解	化学についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

科目名	生物探究	教科	理科	単位数	2
教材	①2年の生物基礎で使用した問題集 ②自主教材		教材費 (予定定価)	①、②なし	

系列選択科目	必修系列	選択できる系列
--------	------	---------

<input type="radio"/> 自由選択科目	選択する学年	3
------------------------------	--------	---

選択の条件	なし
選択のめやす	理系の大学・専門学校への進学を考えている人。
学習目標 (どのような力をつけるのか)	基礎問題を中心に取り組み、入試に対応できる基礎力を身につける。また、センター試験への対策として入試過去問題にも取り組み、事象を論理的にとらえる力を育む。
学習方法 (授業の進め方・学習の仕方)	身の回りのさまざまな自然現象から法則性を考えていく。授業で取り組んだ内容は家庭で復習すること。また、教科書等を使って、自分で調べながら問題を解いてみる。
評価方法	定期考査、授業への取り組み、提出物の状況、小テストの結果などをもとに評価する。

学習計画
(1年間の授業計画)

学習内容	学習活動
生物基礎の内容 ・生物の共通性 ・生物の共通性生命活動とエネルギー ・生物と遺伝子 ・遺伝子の均等配分 ・体内環境の維持 ・体内環境を保つ仕組み ・体内環境を守る仕組み ・植生の多様性 ・気候とバイオーム ・生態系とその保全	範囲に関する基礎問題に取り組みながら、内容の復習を行う。 小テスト、課題により基礎力の定着をはかる。 実践力、あきらめずに挑戦する力を身に付けるため入試過去問題の類題や応用問題にも挑戦する。

評価の観点

関心・意欲・態度	生物の現象に関心をもち、意欲的にそれを探求するとともに、科学的に物事を捉える見方、考え方を身に付けている。
思考・判断・表現	基礎問題や入試問題の取り組みを通し、生物の現象について科学的な思考力、判断力を身に付け、表現できる。
技能	生物の現象を捉えるための観察・実験の技能を身に付け、表現できる。
知識・理解	生物についての基本的な概念や法則を理解し、知識を身に付けている。

科目名	就職科学	教科	理科	単位数	2
教材	自主教材	教材費 (予定定価)		なし	

系列選択科目	必修系列	選択できる系列
--------	------	---------

<input type="radio"/> 自由選択科目	選択する学年	3
------------------------------	--------	---

選択の条件	なし
選択のめやす	就職を真剣に考えている人。
学習目標 (どのような力をつけるのか)	就職試験頻出の適正検査・一般常識の問題を教材とし、基本的な解答作成力の定着を図ることと、身の回りの物質と科学知識のつながりを理解することを目的とする。
学習方法 (授業の進め方・学習の仕方)	就職試験の問題演習を繰り返し行い、実験・観察・調べ学習・DVD視聴・課題レポートなどを通して、既習の科学知識を理解する。
評価方法	定期考査は実施しない。活動の様子、課題提出状況、日頃の授業の取り組み方で評価する。

学習計画
(1年間の授業計画)

学習内容	学習活動
1 就職適性検査・SPI2の理的分野 の演習	1 就職試験に良く出題される濃度の計算、速さ、時間の計算などの問題演習を繰り返し行い、解答作成力を高める。
2 身の回りの商品から学ぶ化学	2 種々の商品を通して化学の理論を学ぶ。
3 物理・化学・生物実験・観察とその原理	3 実験や観察を通してその原理を学び、レポートを作成する。
4 科学の現象に関するDVD視聴	4 DVD視聴をして、レポートを作成する。

評価の観点

関心・意欲・態度	科学の現象に関心や探究心をもち課題を自ら意欲的に取り組む。
思考・判断・表現	科学の知識が生活にどのように関わっているか考えて表現する。
技能	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、その過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
知識・理解	科学の現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。